

いちき串木野市

概要

いちき串木野市では、平成 23 年度からいちき串木野市グリーン・ツーリズム協議会を運営主体とし、民泊型教育旅行の受入を実施している。しかしながら、鹿児島県全体の修学旅行受入の減少傾向もあり、教育旅行受入家庭数も全体的には横ばいであり、いちき串木野市全体としての活性化に至っていないと感じている。また、学生対象ではない一般客向けに目を転じると、農家民宿（農林漁家体験民宿）や農林漁業体験プログラム等の整備がなされていないのが現状である。

現在のグリーン・ツーリズム活動の実践者である受入家庭の意識を、民泊型教育旅行の受入のみから一段階引き上げるため、本事業を活用し、「農泊推進セミナー」「農泊先進地視察研修」に取り組んだ。

意識が変わった職員での研修

平成 30 年 11 月 10 日～11 日の日程で農泊先進地である大分県・宇佐市安心院市（NPO 法人安心院町グリーンツーリズム研究会）での研修に市職員 5 名で参加。農家民宿開業を推進するにあたって、市職員自身に農泊体験がなかったため、その良さを体験するというのが大きな理由である。もう一つの理由として、現在はグリーン・ツーリズム協議会の運営が行政が行政の補助金で賄われている現状に対して、NPO 法人安心院町グリーンツーリズム研究会は民間で自立運営しており、その仕組みについて知るため、視察先とした。

ここでは一般客の受入を体験しながら、様々なおもてなしを受けた。写真のように、受入家庭では幾種類ものはんてんが用意されており、選んで着ることができる細やかな気配りかつつつろげるアイテムも目をひいた。先の宮田会長からは「専業農家は農業が忙しいので、兼業農家や非農家の方こそグリーン・ツーリズムを推進すべき」というアドバイスもあった。

平成 31 年 2 月に行った 2 回目の農泊研修会は、安心院町から講師を招き、参加者からは農家民宿開業について、意欲的な声も聞かれるようになった。来年度の研修は、受入家庭の中から参加者を募る予定。

活動の活性化の先に事務局機能の自立

グリーン・ツーリズム協議会の設立から数年が経過し、受入家庭数の減少や、高齢化はどの協議会にもみられる共通した課題でもある。活動が停滞すれば、理想とする協議会が運営費を自活で捻出できるという目標にはなかなか届かない。

近年、農山漁村滞在型旅行（＝農泊）が推進される中、この取組には農家のみならず、直売所・観光農園・飲食店・観光事業所等の地域連携が肝要であることが指摘されているが、同協議会は、設立当初から会員に観光協会や農業協同組合、漁業協同組合等を含み、運営は NPO 法人（観光案内所運営を兼ねる）である点など、上記農泊が掲げる地域連携をとりやすい体制に既にあるといえる。それだけに、個々のプログラム提供者、宿泊所提供者が一人ひとり増えていくことで、厚みのある地域になることが期待される。



ここがキラリ☆ いちき串木野市の取組

新たな目標を立てることで会員の継続意欲・やる気につなげつつ、行政主導になりすぎないように、まずは機運の醸成から図る堅実な計画性が見て取れる事業内容です。